

〃 看病福田 〃

平成二十八年四月二十六日 加茂法話会

▼ 看病福田これ第一なり

福田〓幸福の種を播くに相應しい田んぼ

▼ 『ブツダ最後の旅』 〓プツクサの供養

▼ 神も仏もあるものか

▼ 災難に遭う時には災難に遭う

▼ 感謝の祈り

新潟市秋葉区田家

久昌寺 中野睦宗

そこでマツラ族の子ブックサは、他の人に告げていった。

「さあ。お前はわたしに柔かいつやつやした金色の一对の衣をもつて来てくれ。」

「かしこまりました」と、その人は、マツラ族の子ブックサに答えて、その柔かいつやつやした金色の一对の衣をもつて来た。そこで、マツラ族の子ブックサは、その柔かいつやつやした金色の一对の衣を、尊師に差し上げた。

「尊い方よ。柔かい絹の金色の一对の衣が、ここにございます。尊師は、どうか、わたくしのためにお受けください。」

「では、ブックサよ。一つはわたしに着せ、一つはアーナンダに着せなさい。」
「かしこまりました」と、マツラ族の子ブックサは尊師に答えて、一つの衣を尊師に着せ、(他の)一つの衣をアーナンダに着せた。(四一三五)

そこで尊師は、マツラ族の子ブックサを(法に関する講話)によって、教え、諭し、励まし、喜ばせた。そこでマツラ族の子ブックサは、(法に関する講話)によって尊師に教えられ、諭され、励まされ、喜ばされて、座席から起って、尊師に敬礼して、右肩を向けて(三たび)廻って、出て行った。(四一三六)

次いで若き人アーナンダは、マツラ族の子ブックサが去って間もなく、その柔かいつやつやした金色の一对の衣を、尊師のからだに着せてあげた。尊師のからだに着せられたその衣は、輝きを失ったように見えた。

そこで若き人アーナンダは、尊師に次のように言った。
「尊い方よ。不思議なことです。珍しいことです。修行完成者の皮膚の色は、きよらかで、輝かしい。そのつやつやした柔かい絹の一对の金色の衣を尊師のおからだに着せてあげましたが、尊師のおからだに着せられたその衣は、光輝きを失ったかのように見えます。」

「アーナンダよ。そのとおりにある。まことに二つの時において修行完成者の皮膚の色は、きよらかで、輝かしい。その二つの時とはどれであるか？すなわち、アーナンダよ。修行完成者が無上のさとりを達成した夜と、煩惱の残りの無いニルヴァーナの境地に入る夜とである。アーナンダよ。この二つの時において、修行完成者の皮膚の色は、極めてきよらかで、輝かしい。」(四一三七)